

市町村議会議員特別セミナー

市町村議会議員特別セミナーを、1月7日、8日の2日間の日程で開催しました。全国各地からご参加いただいた25人の市町村議会議員の皆様に聴講いただきました。

初日は、「ウィズコロナ時代の日本経済」と題して、経済評論家で大阪経済大学客員教授の岡田晃先生から、コロナウイルスの感染拡大が日本経済に与えた影響、テレワークの拡大や東京一極集中から地方分散への兆しなど、コロナ禍で始まった新たな動き等についてご講演いただきました。参加者からは、「コロナ禍における日本経済の現状と今後の見通しについて良く理解できた」、「コロナ禍でも業績を上げている企業があることを知って、とても勇気づけられた」などの感想をいただきました。

次に、「豪雨災害とその備え」と題して、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝先生から、防災は、主体的な姿勢を持つ住民に対する行政サービスからサポートに移行すべきであること、住民自らが自らの安全を守らなければならないという意識を持つ大切さ、日本の防災の向かうべき方向として自助、共助、公助が一体となって自然災害に立ち向かう社会を構築する重要性などについてご講演いただきました。参加者からは、「行政の限界と、住民の役割を改めて知った」、

「地域防災計画の作成に当たって、課題等についてヒントを得られ良かった」などの感想をいただきました。

2日目は、「地方議会の将来に向けて」と題して、東北大学大学院情報科学研究科准教授の河村和徳先生から、地方議会改革の具体的な手法として、議員定数や議員報酬、議会のDX（デジタルトランスフォーメーション）などに対する検討の進め方等についてご講演いただきました。参加者からは、「議会改革を進める必要性を議員同士で共有したい」、「能力の高い議員を目指す必要性を痛感した講義だった」などの感想をいただきました。

最後に、「地域コミュニティの現状と自治体の役割」と題して、法政大学法学部教授の名和田是彦先生から、自治会・町内会とは何か、町内会等の加入率低下と地域の現状、都市内分権制度、今後地域が新たに取り組んでいくべきことなどについてご講演いただきました。参加者からは、「防災や地域福祉において、今後、自治会・町内会の役割は大きくなると思う。加入者を増やすという最重要課題について考えていきたい」、「ドイツの都市内分権、自治組織を比較対象として日本の自治会を見る切り口は素晴らしい」などの感想をいただきました。

ウィズコロナ時代の日本経済

経済評論家
大阪経済大学客員教授

岡田 晃先生



豪雨災害とその備え

東京大学大学院情報学環特任教授

片田 敏孝先生



地方議会の将来に向けて

東北大学大学院情報科学研究科
准教授

河村 和徳先生



地域コミュニティの現状と自治体の役割

法政大学法学部教授

名和田 是彦先生

